

移住促進

たかはしい さお
高橋功人議員

結婚応援事業の拡大は

答弁 補助要綱改正を検討する

今こそ様々な支援策を強化すべきときです…

AQ 結婚応援事業の実績は、にぎわい創出課長 10件を予定していましたが、現在まで2件の支援を行いました。
Q 国が定めた要件に町独自の条件を付加できないのか。

A にぎわい創出課長 国の補助事業ですが、町独自の予算を充てることで可能性はあります。
Q 支援事業の対象年齢を40歳まで拡大できないか。

A にぎわい創出課長 来年度から国の要件が39歳以下まで緩和される予定です。町でも補助要綱の改正を検討します。

41件で徐々に増えています。
Q 子供たちを事件・事故・災害から守るために緊急避難場所を確保する目的とあるが、「災害」が明記されたのはいつからか。協力者や子供たちに周知されているのか。

A 防災地域支援課長 平成25年に改定されました。設置協力者への周知と一層の協力を要請していきます。

小川町の宝、緑と清流をしっかりと次世代へ…

A 建設課長 町道233号同号機と横断歩道設置を警察に要望し、カーブミラー設置を検討

Q 太陽光発電計画は何箇所で、反対運動がある場合その理由は。

A 環境農林課長 出力20キロワット以上の施設は152件で、町内全域に点在しています。反対運動は承知しており、理由は生態系や環境を損なう、土砂搬入の不安です。

命と安全守る対策を

A 建設課長 町道233号同号機と横断歩道設置を警察に要望し、カーブミラー設置を検討

Q 町の基本理念「自然と共生したまちづくり」との整合性は。

A 環境農林課長 里地里山保全の共同体づくりを推進します。

Q 人命最優先、安心安全第一に考えるべきではないか。

A 建設課長 道路利用者の安全を第一に考え、取り組んでいかねばと考えます。

・新型コロナウイルス感染症対策の充実・強化を

命と安全、基盤理念厳守を

Q 里地里山保全の共同体づくりを進める

A 里地里山保全の共同体づくりを進める

ほんだしげのぶ
本多重信議員

生活道路

かさはらのりひろ
笠原規弘議員

「もっと安全な町へ」みんなで達成しましょう…

Q 青山陸橋西交差点から大河公民館付近までの環状1号線は、令和5年に工事が完了する。大河公民館周辺の生活道路の安全対策は。

A 建設課長 生活道路の安全確保のため、県や警察等と連携した対策が必要です。通過交通の安全対策は環状線の延伸が効果的であり、引き続き県への要望を続けていきます。

Q 町内には抜け道として使われている生活道路が何箇所もある。安全対策について、地区やボランティアの方々と話し合ふ機会を設けるべきではないか。

A 防災地域支援課長 「交通安全隊」や「交通安全母の会」と安全対策についての話し合いの場を設け、危険箇所の洗い出し



通勤時間帯の 安全対策を

とぐち まさる
戸口 勝議員

里山の環境を、町民の手で再生させましょう…

Q 総面積の58%が山林に覆われている森林整備の状況は。

A 環境農林課長 現在山林所有者から委託を受け、人工林面積の18・7%が埼玉県中央部森林組合により森林経営計画が進んでおり、効率的な伐採と保育が実施されています。

Q 間伐材の利活用は。

A 環境農林課長 主にバイオマスの利用のチップ材として、また木材としてベンチなどに使われています。当町を含む埼玉県中央部森林組合エリアでは、間伐可能面積の5%にとどまっています。利活用が少ない理由として、搬出するコストがかかることが考えられます。また、その後の利用もコストに見合った成果物にならないのが課題で



間伐や人材育成・確保、木材利用の促進費用に国税が充てられています。

ただひたすら「カレーづくり」に励んでいます。
(I・Rさん 28歳)

おがわぎかれ No.98 令和2年12月定例会

脱炭素社会への 環境教育を

とぐち まさる
戸口 勝議員

答弁 自然を守る姿勢

あるようです。

Q 木質バイオマス活用の実現は中期的な課題だが、まずは対応可能な環境教育の推進を。

A 環境農林課長 「仮称」山の学校」を立ち上げ、森林問題や木質バイオマスの利用を支えるコミュニティの場づくりへ展開を考えています。子供の心に持続させる態度を育てます。

縁側でビールを飲み、ちょっと贅沢なお刺身をいたいで、柚子風呂に入ること。
(K・Nさん 40代)

YouTubeで自動車整備系チャンネルを見ること。
(S・Sさん 40代)

おがわぎかれ No.98 2021.2.1発行

P.9からのつづきです！